

平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

<p><b>自己と他者を大切にできる豊かな感性を持った生徒を育成し、確かな学力を身につけ、自己実現・社会貢献できる人材を育む学校</b></p> <p>1 豊かな人間関係が形成できる力を持つ人権感覚に富んだ生徒を育てる</p> <p>2 学ぶ楽しさを実感することで基礎学力を有した「社会を生き抜く力」を育てる</p> <p>3 「働くことの意欲」を醸成し、自己の進路を主体的に選択できる力を育てる</p>
--

2 中期的目標

<p>1 安全で安心な学校生活を送れる学校づくり（生徒相互が気持ちを伝え合える環境と人権感覚に富んだ生徒を育成）</p> <p>（1）生徒相互にとって安全で安心な学びの場づくり《人間関係の育成として居場所創りの施設等を含む学校環境整備》</p> <p>ア 基本的なコミュニケーションの取り方を体験的な行事等から育成・近畿地区総合学科研究発表大会への取り組み</p> <p>イ 危機管理体制（防災計画）の確立・見直し。緊急事態発生時の円滑な対応ならびに施設の老朽化対応《修理・改修・新規》</p> <p>（2）基本的な生活習慣の確立 《働き方改革への取り組みとして学校閉庁日等の推進》</p> <p>ア 基本的な生活習慣の確立のため生徒・保護者・教職員との主体的な連携（「子どもの学び・育ちの原点」をベースにした協働）</p> <p>イ 生涯にわたり生徒が自己の健康管理を習得するため福祉・労働分野と連携（子どもが健やかに育成される環境整備）</p> <p>（3）規範意識の醸成と個々の生徒のニーズに応じた支援体制 《生徒に向き合う時間確保…定例会議等・定時出退勤の検討》</p> <p>ア 「規範意識の醸成」に努めるため、生徒との対話や学校運営協議会の意見を踏まえ、必要に応じ取り組み・ルールの見直し、改善</p> <p>イ 「ともに学び、ともに育つ」教育の推進と研修、支援学校との「交流及び共同学習」の機会の充実</p> <p>ウ 教育相談・人権推進委員の体制（道徳教育推進教師を中心とした取り組み）校内研修の充実《校内体制の組織づくり、将来構想への取り組み》</p> <p>2 エンパワメントスクール【E S】二期生を迎え、学校全体の横断的な繋がり《E S 完成年度へ向けたミドルリーダーの学校経営参画》</p> <p>（1）「魅力ある授業」の創造と主体的・対話的な深い学びの実践を通じ「学びに向かう力・人間性等」を中心に自己肯定感を育成</p> <p>ア 「わかる授業」を大切に、生徒が「できた。わかった。もっとできる」授業の実践に観点別学習状況・評価を組み込む</p> <p>イ 「産業社会と人間」「総合的な探求の時間」や体験的な行事などの活用。「チームいずそう」で総合学科研究発表大会に参加</p> <p>（2）公開授業の活用</p> <p>ア 公開授業週間などを活用し、研究授業の充実を図る 《多様な学びを可能にする授業研究協議の充実》</p> <p>イ 様々な授業手法について研鑽に努める。エンパワメントスクールに特化した研修</p> <p>（3）モジュール授業やエンパワメントタイム教材の充実と情報発信の展開 《リーフレット等・中学校訪問を含め活動の展開を再構築》</p> <p>ア E S 8 校の情報共有とモジュール授業等の効果検証を実施。個々の生徒に興味・関心ある教材の提供</p> <p>イ 先駆的に取り組んでいる学校・イベント等の見学を行い、その情報を共有しE S の系列等に反映・充実</p> <p>3 自己肯定感の育成とキャリア教育の充実《自己有用感を生徒に伝え、実感させる機会の充実》</p> <p>（1）生徒会活動や部活動、地域貢献の活性化</p> <p>ア 体育祭や文化祭などを生徒の自主的活動になるよう生徒会・実行委員会を中心に運営する</p> <p>イ ボランティアや地域との連携を図る活動の充実（はつがの祭りへのS L 運行などボランティア）</p> <p>ウ 体験的な行事、情操教育への啓発を生徒会活動、クラブ活動を中心に活性化を図る</p> <p>（2）3年間を見通したキャリア教育の推進（「働くことの意義」を醸成し、自己の進路を主体的に決定する力を育てる）</p> <p>ア 職業観・勤労観を養い将来の自分の生き方について展望を持つための働きかけを推進</p> <p>イ 教科学習を基本に「産業社会と人間」「総合的な探求の時間」体験的な行事など、あらゆる教育活動を生徒の自己発見に繋げる</p> <p>ウ 未知の状況に対応できる思考力・判断力・表現力、『コミュニケーション力・キャリア意識』を促す情報編集力を育成</p> <p>エ 進路希望調査を実施し、進路希望に応じた豊富で適切な情報を提供するとともに、適正検査等を利用し、自己の適性や能力を発見させるように努める（進路決定率 平成 30 年度 79.0% 平成 31 年度 82.0 %）</p>
---

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [ 令和元年 12 月実施分 ]	学校運営協議会からの意見
<p>学校全体の欠席数は微減、遅刻数は約 3000 日の減少、懲戒件数も約 40% 減（12 月段階）など基本的な整備は出来つつある。全校集会の生徒集合までの時間、話を聴く態度も非常に進歩している。学校全体を鑑みても計画通りに進んでいる。体育祭・文化祭の内容も充実している。しかし、学校教育自己診断の結果には物足りなさを感じる。昨年度に引き続き、意識改革とともに検証も必要である。課題は生徒・保護者ともに自己診断の結果が H30 とあまり変化がない中、保護者の回答数が「H30 18.5% R01 53.5%」と全体の半数の提出と大きな改善がみられた。メール等の広報活動の成果と判断している。生徒の診断「校則を守る」78.5%から規範意識の醸成は出来てきている。今後は対話のあるルール作りや運用等の見直しをさらに進めていきたい。教職員は、教育相談体制やカウンセリングマインドを取り入れた生徒指導の項目では 70% 強であり、それに生徒の主体的な対話を加えながら、学校の改革を進めることで、エンパワメントスクールの完成への取り組みを加速させていきたい。</p>	<p>第 1 回：令和元年 5 月 31 日（金）</p> <p>・新学習指導要領では、グループ学習などの対話を重視した学習形態を取り入れている。エンパワメントスクールでは先取りすべき。また、学校行事は保護者の参画が必要。特に体育祭では「メガホン・衣装」などで団結する雰囲気が必要。文化祭は時間を延ばすことを検討してもらいたい。</p> <p>第 2 回：令和元年 11 月 1 日（金）</p> <p>・PTA 全国大会で和泉総合高校が今までの活動の功績を称え表彰された。また、エンパワメントスクールに改編されて、進学希望者も増えてきたので、図書室や自習室の整備が必要である旨の発言があった。また、改編完成に向けてイベント的な行事を考えるなど必要。子どもが楽しめる場所や行事の工夫してもらいたい。</p> <p>第 3 回：令和 2 年 1 月 31 日（金）</p> <p>・地域や地元の小中学校との連携を強化して、エンパワメントスクールとしての定着を図れる好機である。また、支援が必要な生徒へは、早期からのキャリア教育を取入れ、進路決定に繋げてもらいたい。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1 安全で安心な学校生活を送れる学校づくり</p>	<p>(1)安全で安心な学びの場づくり ア 基本的なコミュニケーション イ 危機管理体制、緊急事態発生時の対応</p> <p>(2)基本的な生活習慣の確立 ア 基本的生活習慣 イ 自己の健康管理と福祉・労働分野</p> <p>(3)規範意識醸成と個々の生徒への支援体制 ア 生徒に寄り添うための対話重視 イ「ともに学び、ともに育つ」教育推進</p> <p>ウ 教育相談の取組と校内研修</p>	<p>(1)生徒相互にとって安全で安心な生活できる場と人間関係の育成・学校環境整備 ア・「総合的な探求の時間」、「産業社会と人間」などを活用し、コミュニケーションの取り方を外部人材の活用を含む体験的な学習・行事等を通じ育成 イ・緊急事態発生時の連絡体制の確認と徹底・生徒の参加による安全衛生講習会の実施 (H30年度 26人)</p> <p>(2) 基本的生活習慣の確立 ア・基本的な「あいさつ運動」の定着 イ・健康診断で尿検査の受診率を維持 貧困対策等の取組み</p> <p>(3) 規範意識醸成と個々の生徒への支援体制 ア・規範意識の醸成をめざして生徒・教職員との対話を重視、生徒のニーズを踏まえた見直し・保護者懇談などにより保護者と連携を深め、寄り添い、粘り強く指導 イ・「ともに学び、ともに育つ」教育と交流及び共同学習の充実</p> <p>ウ・教育相談委員会等とSC/SSW/CCの連携をさらに深め、研修を充実。また、定例会議等を見直し、教職員の負担軽減を図る</p>	<p>(1)安全で安心して生活できる場としての居場所創り・老朽施設の改善 ア・人間関係トレーニングなどを各学期に実施 イ・救急連絡体制の確認3回 ・安全衛生講習会等の生徒参加1割アップ(H30年度 26人)</p> <p>(2)基本的生活習慣の確立 ア・校内でのあいさつ運動を毎日実施 (H30年度 150日) イ・受診率の維持(H30年度 98%) 食育等への関心・実習等の充実</p> <p>(3)規範意識醸成と個々の生徒への支援体制の充実 ア・懲戒件数の10%減少と必要に応じたルールの見直し(H30年度 88件) ・のべ欠席日数の10%減少(H30年度 9063日) 遅刻数の減少(H30年度 20942日) イ 支援教育に関する研修2回実施</p> <p>ウ・ケース会議充実と外部人材の組織体制の充実を図る 校内研修や伝達講習を実施する</p>	<p>(1)安全で安心の場としての居場所創り継続検討・築山の改善実施 ( ) ア・年間を通じ「コグトレ」「SST」など支援教育のノウハウを10回実施( ) イ・救急連絡の確認は2回、教職員・保護者の一部に未登録あり( )・生徒への広報不足、5割減少(R1年度 12人)( )</p> <p>(2)基本的生活習慣の確立 ア・あいさつ運動実施(R1年 143日)( ) イ・尿検査受診率アップ(R1年度 99.5%)( )</p> <p>(3)規範意識醸成と生徒への支援体制 ア・懲戒件数の昨年度比較は36.4%減少必要に応じ、ルールもフレキシブル対応 (R1年度 56件)( ) ・のべ欠席日数は全学年で590日減少 (R1年度 8473日)( ) ・遅刻数の減少(R1年度 17430日)( ) イ・支援教育研修2回実施し、愛着障害・コグトレの体験研修を支援学校と協同で交流を図り、支援のノウハウを学ぶ( )</p> <p>ウ・ケース会議と外部人材の体制の活用 (R1年度 ケース会議 12回)( ) SC/SSW/CCと学校全体で横断的に情報共有を図り、生徒対応が奏功( )</p>
	<p>2 エンパワメントスクール【ES】二期生・横断的な繋がり</p>	<p>(1)「魅力ある授業」の創造と主体的・対話的な深い学びの実践 ア「できた。わかった。もっとできる」と感じられる授業 イ総合学科研究発表大会</p> <p>(2)公開授業の活用 ア 公開授業週間活用 イ ESの授業手法について研鑽</p> <p>(3)モジュール授業等 ア利用可能な教材 イ先駆的な学校見学</p>	<p>(1)「魅力ある授業」の創造と主体的・対話的な深い学びの実践 ア・エンパワメントスクールへ対応した研究授業 観点別学習の検証 イ・1・2年(ES)と3年生の横断的な繋がり各学年団と生徒との信頼関係の構築 総合学科研究発表大会への取組み</p> <p>(2)公開授業の活用 ア・教員相互が授業に関する意見交換を行う イ・エンパワメントスクールに特化した授業研修、ICTの活用を増加</p> <p>(3)モジュール授業等の教材の精査 ア・先駆的な教材の本校での活用方法を検討し、新たな授業方法の実践方法を模索する イ・学校生活に課題を抱える生徒が多く、新たな学校等の取組みを学ぶ</p>	<p>(1)「魅力ある授業」の創造と実践 ア・研究授業2回。教務内規の検討 イ・1年次の進級者数向上 (H30年度 193人) ・学校への楽しさ。学校教育自己診断の学校満足度5%増 (H30年度 55.4%) ・総合学科研究発表大会へ参加する</p> <p>(2)公開授業の活用 ア・生徒の授業満足度5%増 (H30年度 53.3%) イ・視聴覚教材を活用した授業見学や研修を実施</p> <p>(3)モジュール授業等の教材の精査 ア・教材を活用した授業。検討会の実施2回 イ・学校見学・イベント等の参加を6回以上めざす</p>

## 府立和泉総合高等学校

3 自己肯定感の育成とキャリア教育の充実	(1)生徒会活動・部活動地域貢献の活性化 ア 生徒の自主的活動	(1)生徒会活動や部活動、地域貢献の活性化 ア・体育祭・文化祭の生徒会役員の当日の運営や準備期間で、教員と協力しながら活躍の機会を増やす	(1)生徒会活動や部活動、地域貢献の活性化 ア・学校教育自己診断の「将来の進路・生き方の機会」の向上（H30年度生徒60.4%、教職員64.2%）	(1)生徒会・部活動、地域貢献の活性化 ア・「将来の進路・生き方の機会」の向上（R1年度生徒61.4%、教職員70.8%）（ ）
	イ ボランティア活動の充実 ウ 部活動への参加	イ・エンパワメントスクール系列を活用した地域貢献 ウ・生徒会と協力し、クラブ紹介や体験入部に取組む	イ・ミニSLの運行等の地域交流・地域小中学校等の連携 ウ・クラブ加入率を3～5%上昇（H30年度19%107人）	イ・ミニSLの運行等の地域交流（ ） ・地域小学校プログラミング授業（ ） ウ・生徒のニーズに応じクラブを検討し、立ち上げる（R1年度17.9%96人）（ ） 野球部が単独で8年ぶりに公式戦出場（ ）
	(2)3年間を見通したキャリア教育の推進 ア職業観・勤労観	(2)3年間を見通したキャリア教育の推進 ア・地元企業と協力やキャリアコーディネーター（CC）の外部人材の有効活用	(2)3年間を見通したキャリア教育の推進 ア・CCとの学年団等の連携6回	(2)3年間を見通したキャリア教育 ア・CCとの学年団等の連携249回（ ）
	イ生徒自身の自己発見の機会	イ・外部講師によるガイダンスや講演を活用し自己の進路に対する啓発を行う ・資格取得への参加を促し、進路に向けた動機付けを行う	イ・学校斡旋による就職希望者5%増（H30年度47.5%） ・資格取得者の維持～5%増（H30年度43人）	イ・就職希望者に対しCCの外部人材活用で増加に繋げる（R1年度48%）（ ） ・資格取得者の維持～5%増（R1年度46人）（ ）
	ウ コミュニケーション力・キャリア意識を促す情報編集力	ウ・コミュニケーション力・キャリア意識を促す情報編集力の育成 エ・場面に応じた適切な言葉を選択できるよう寄り添い、粘り強く指導を行う。	ウ・コミュニケーション力の養成 エ・3年生の就職面接練習参加率5%増（H30年度65%） （進路決定率H30年度3月末79.0%）	ウ・コミュニケーション力の養成 SC SSW CCとの個別面接実施（ ） エ・3年生の就職面接練習参加率全員参加（R1年度100%）（ ） （進路決定率R1年度78.5%）（ ）